

授業評価 2014 (後期) T1U: 工学部情報画像学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.76(2015-04-17) by Yas

2014 年度後期 工学部情報画像学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1U002001	情報画像概論	1 年後期水曜 4 限	黒岩 眞吾	T1U 1
T1U002002	情報画像概論	1 年後期水曜 5 限	黒岩 眞吾	T1U 2
T1U014001	情報画像実験 I	2 年後期金曜 3,4,5 限	各教員	T1U 3
T1U015001	確率と統計	2 年後期火曜 2 限	松葉 育雄	T1U 4
T1U016001	情報数学 II	2 年後期火曜 4 限	岸本 渡	T1U 5
T1U017001	計算機ハードウェア	2 年後期水曜 1 限	(相京 隆)	T1U 6
T1U045001	情報画像実験 III	3 年後期木曜 3,4,5 限	各教員	T1U 7
T1U048001	データベース	3 年後期月曜 5 限	梶原 康司	T1U 8
T1U050001	デジタル画像処理	3 年後期水曜 4 限	堀内 隆彦	T1U 9
T1U052001	リモートセンシング工学	3 年後期金曜 2 限	久世 宏明他	T1U 10

授業科目名	: 情報画像概論
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 1 年後期水曜 4 限
授業コード	: T1U002001
授業アンケート	: 回答者数 74 人 / 受講者数 82 人 (回収率 90%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 74 件)  
予習 2 時間, 復習 2 時間を行うよう講義第 1 回目でかなり強調して伝えたのだが, 残念ながら, 1 時間未満が 44% 程度いた。その結果, 本講義の出席者の合格率は 70 % 程度に留まってしまっている。満足度や理解率は学科平均値とほぼ一致しているため, 予習復習を徹底する必要があると考えられる。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業を聞いてわかったような気がしても, 具体的な問題に対峙したとき独力では解けないことが多いようです。インターネット等を活用し演習問題を探して自力で問題を解く練習を復習としてやっておくことが大切です。

### 3. その他のコメントや連絡事項

『基本情報技術者試験』の勉強をしておく, 本講義の内容が深く理解できます。また, 就職等にも役立ちますので, 同資格の取得を目指してください。

作成(者): 黒岩眞吾

授業科目名 : 情報画像概論

担当教員 : 黒岩 眞吾

年次・開講時限: 1 年後期水曜 5 限

授業コード : T1U002002

授業アンケート: 回答者数 24 人 / 受講者数 38 人 (回収率 63%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 23 件)

本講義は再履修, 編入生向けに実施している. この授業の発展を学習したのちに, 改めて本講義を聞くことになるため深い理解につながるようである.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 黒岩眞吾

授業科目名	: 情報画像実験 I
担当教員	: 各教員
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 3,4,5 限
授業コード	: T1U014001
授業アンケート	: 回答者数 47 人 / 受講者数 90 人 (回収率 52%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 26 件)

最後のコメントのところにも意見があったが、実験書に関して多くの指摘があった。今後の改善の参考とさせていただきたい。

一方で、実験は自分で何をやるかも考えてほしい、いろいろ失敗しながら学んでほしいという側面もあり、わざと内容を減らしているという点は理解してほしい。

Q18. あなたはこの演習・実験・実習科目を受講することによって、対応する講義の理解が深まりましたか? (回答 47 件)

実験のいいところは、実際に手を動かし、体感することで通常講義以上の理解度を得られることにあると考える。その意味で、本実験が目標をある程度達成できていると考える。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

実験は情報画像学科のカリキュラムの中核をなす科目である。

学生のみなさんからの意見を参考に、年々改善をはかっていきたいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 関屋大雄

授業科目名	: 確率と統計
担当教員	: 松葉 育雄
年次・開講時限	: 2 年後期火曜 2 限
授業コード	: T1U015001
授業アンケート	: 回答者数 42 人 / 受講者数 79 人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 41 件)  
理解できた, ややできたが過半数であったが, いいえが若干  
いるので, 授業にさらなる改善をはかりたい.

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 41 件)  
例題を多く取り上げて, 確率の重要性を強調して授業を構成しているので,  
65 %の学生は理解できている. しかしまだ若干そうでない学生が  
いるので改善したい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

試験結果とアンケートを合わせると, おおむね目標は達成しているものと思う.  
しかし, 出席回数, 復讐等を見るとさらに理解度は深まるものと思えるので,  
もう少し頑張って取り組んでもらいたい.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 松葉育雄

授業科目名 : 情報数学 II  
担当教員 : 岸本 渡  
年次・開講時限: 2 年後期火曜 4 限  
授業コード : T1U016001  
授業アンケート: 回答者数 44 人 / 受講者数 85 人 (回収率 52%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

板書の読みにくさについては毎年指摘されており、改善をするように心がけているがまだまだ不十分であることが分かった。板書改善するためには時間的に余裕をもった授業の進行が効果があるのではないかと考えを現在もっており、来年度に向けてどのような方策が良いか検討をしている。教室の大きさに対する不満は今年度は講義室の改修工事の影響で少し狭い部屋を使わざるを得なかったため、次年度にもとの大きさの部屋に戻った上での結果をみて改善策を検討したいと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の内容とテストの難易度のギャップが大きいとの指摘があったが、今年度についてはギャップは小さかったのではないかと考えている。教科書の例題、演習問題、授業最後の小テストと類似の問題が多かったので、この指摘は今年度についてはあてはまらないのではとの印象がある。また、授業内容を基に教科書の演習問題などを解いてみる程度のことは受講者にはしてもらいたいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

授業内容についてのリクエストが記述されていたので、そのような要望にも答えたいと思うが、科目の性質上、広く浅く授業を行わなければならないので悩んでいるところである。また、授業中の小テストを友人と相談しながら解くことは良いことであると思うが、他人の解答をそのまま写しただけ(しかも写し間違えている)の提出物を見ると悲しくなる。

作成(者): 岸本渡

授業科目名	: 計算機ハードウェア
担当教員	: 相京 隆
年次・開講時限	: 2 年後期水曜 1 限
授業コード	: T1U017001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 64 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 38 件)  
授業中に特に予習、復習について言わなかったせいもあるが、予習、復習の時間が 1 時間未満が半数以上いた。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

準備学習、復習にかかる時間が少ないためか、理解度も若干低いと思われる。  
今後は、宿題、レポートを増やして理解度の向上につなげることを検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

特になし

作成(者): 北神正人

授業科目名	: 情報画像実験 III
担当教員	: 各教員
年次・開講時限	: 3 年後期木曜 3,4,5 限
授業コード	: T1U045001
授業アンケート	: 回答者数 61 人 / 受講者数 97 人 (回収率 63%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q23. 班の構成メンバーで実験を適切に分担できていましたか? (回答 58 件)

この実験 3 で、初めてプロジェクト型の実験を行った。共同作業における分担と連携の重要性を実体験できたとの声が多かった(プロジェクト終結時の意見や Q29 の回答のほとんど)。この経験をきっかけにして、今後の研究、企業内での共同作業に役立てて欲しいと願っている。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

学科の実験 1,2,3 のシリーズのなかで、最後の実験 3 では、今後の研究や企業などで求められている共同作業の経験などを学ぶことを意図して構成されている。受講生にとって、このようなプロジェクトは初めての経験であり、今後の研究や企業におけるプロジェクトなどで、より多くの経験をするようになると思う。実験環境についての不満は少ないものの(Q30 の回答)、いずれも今後も同様の事情が想定される範囲内の意見ばかりである。そのようななかで、いかに目標を達成するのか、それに対して自分はどんな貢献ができるのかを探し、そのために学び続けてほしいと思う。

### 3. その他のコメントや連絡事項

最後の表彰式で、各班から代表に感想や意見を述べて頂いたが、楽しかったなどの意見はどうでもよく、プロジェクトである以上、当初の目標を達成できたかがを、各自が真摯に振り返って欲しい。何が足りなかったのか、自分が他のメンバーと違って、どのような技術的特徴(長所)を活かせるのかをよく考え、その長所をさらに伸ばすために、学び続けてほしいと思う。

作成(者): 須鎗弘樹



授業科目名	: データベース
担当教員	: 梶原 康司
年次・開講時限	: 3 年後期月曜 5 限
授業コード	: T1U048001
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 54 人 (回収率 56%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 30 件)

基本的にスライドを用いることなく、板書で講義を行っている。

基礎的な概念の理解には、講義中、学生がノートを取りながら考える時間が重要と考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

本講義は、データベースを自力で学習する際に初学者が陥りやすい概念の誤解や用語の混乱をなくし、基礎概念を十分に理解することを目的としている。

作成(者): 梶原康司

授業科目名	: デジタル画像処理
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 3 年後期水曜 4 限
授業コード	: T1U050001
授業アンケート	: 回答者数 35 人 / 受講者数 60 人 (回収率 58%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 34 件)

受講者より、満足度の高い評価を得た。本科目は3年後期に開講されているため、興味を持った学生が数多く受講していることも関係していると思われるが、今後も満足度の高い講義を継続していきたい。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 34 件)

画像を扱う講義であるため、全ての回でスライドプロジェクタを用いて、視覚的に理解するように努めたことが、高評価につながったと思われる。また、カラー画像を扱うため、カラー印刷の資料を配布したことも、手助けになったようである。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義内容は満足度の高い評価であり、今後も同じスタイルで継続していきたい。途中、数回のレポートを課したが、家庭での学習時間はアンケート結果からも高くないことがわかる。中間発表の検討を含めて、日頃から家庭において学習に携われる工夫を施したい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

デジタル画像を扱う上で、計測から処理、再現にいたる基本的事項を講義している。特に、画像系への研究室配属を希望する学生は、必ず受講して欲しい。

作成(者): 堀内隆彦

授業科目名	: リモートセンシング工学
担当教員	: 久世 宏明, Josaphat T. Sri Suman, 齋藤 尚子
年次・開講時限	: 3 年後期金曜 2 限
授業コード	: T1U052001
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 33 人 (回収率 91%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 29 件)

アンケートに答えた学生のうち 69% (20 人) が理解できた・ほぼ理解できたと回答しており、また授業への満足度は 86% (25 人) が満足・ほぼ満足と回答している。選択科目なので予め興味をもった学生が多く履修している状況があるが、全体として理解度・満足度は期待される水準にある。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

情報画像学科の専門科目の中で唯一、リモートセンシングを中心テーマとして扱う授業である。衛星データ、環境データは多くの場合、画像情報やスペクトル情報を出発点として、そこから科学的に確かな情報をどのように抽出するか、という流れになっており、情報画像の多くの授業科目と親和性が高い。アンケート結果は、受講した学生の多くが講義を通じて、その方法論や特色を正しく理解してつかみとった結果を反映しているものと考えている。

### 3. その他のコメントや連絡事項

環境リモートセンシング研究センターは 1995 年に設立され、国内外の共同研究を担ってきています。リモートセンシングを中心とするセンターは国立大学の中でも千葉大学だけにあり、情報画像学科の学生の皆さんは本講義や卒業研究などを通じて直接、本センターの教員と接することができます。この機会を是非、活用して情報や画像処理の技術が地球や地域の環境解析にどのように応用できるか、体験してください。

作成(者): 久世宏明